各種審議会等の改善について

佐久間　儀　郎

〔質問〕審議会、委員会の統廃合で一審議会当りの委員数を極力減らす、また公募制の導入や女性委員の積極的な登用を行うべきと思う。集中改革プランにより、これまでに検討した中間成果。また市議会議員の審議会委員等への登用は、就任を制限するとか若干禁止していくべきではないか、市長の所信を伺う。

〔答弁〕【市長】これまでに公募制、女性委員の登用を実施しており、委員数は平成23年3月時点からは41名減だが女性委員の割合は若干の増加である。また市議会議員の登用については、必要なところには入っていただいているので、引き続き審議会等の性格に合わせて対応していきたい。

【消費者保護・詐欺対策について】

〔質問〕「わが家の悪質商法撃退マニュアル」という冊子が配布されたが、被害の発生状況、被害防止対策として冊子配布の他にどのような対策をとっているのか。また関係機関との連携はどうなっているのか。

〔答弁〕【市長】被害者の8割を65歳以上の女性が占めるというが、被害届のほか隠れた被害を懸念しており、警察署とも連携をしながら「広報しろいし」やホームページ、安心メール等の多くの媒体を利用して啓発していきたい。宮城県警では、振り込め詐欺被害抑止コールセンターみやぎで県内の各家庭に有効な防止策等について紹介する電話サービスを展開している。

【学校給食における「食物アレルギー」への対応策について】

〔質問〕①食物アレルギーのある子ども達の有無と実態②事故を防ぐために、㈠校長など管理職を含む全教職員向け研修の取組み・学校毎の対応マニュアル作成等の状況㈡主治医と学校、保護者の情報共有。給食に原因物質を使わない献立づくりの配慮㈢エピペンの使用が必要な緊急時に備えた消防署との連携

〔答弁〕【教育長】①135名のうち受診しているのが39名である。②㈠仮称「食物アレルギーガイドライン」の提言を得て校長会、教育委員会等で協議し最終決定をして学校に配布していきたい。㈡アレルギー追加調査票をもって保護者と面談、緊急時対応の確認、指導を行う。

必要に応じ学校生活管理指導表、主治医の診断書の提出を求め、保護者には必ず給食献立明細表を配布。給食センター、学校と密に連絡をとる。

㈢使用している児童生徒はゼロだが消防署と連携し緊急時の体制をとっておきたい。

都市計画道路及び大雨等の防災計画について

澁　谷　政　義

〔質問〕地域産業経済の発展、そして農業や観光及び市民の円滑な移動手段として道路の整備は欠かせない。

昭和40年代に計画された都市計画道路が数多くある。中でも中河原白石沖線（福岡長袋～東町）は改良率37・7％である。

この道路は市民の夢の環状型幹線道路であり、この計画道路が整備されれば、当市の交通網が大きく変化することが期待されるが、整備実現に向けての見解を伺う。

〔答弁〕【市長】現在のところ具体的な事業計画はない。白石川、そして東北本線に橋を架ける多額な事業費と長い時間が必要とされる。

都市計画道路の全体的な見直しを行う中で、その必要性を検討したい。

〔質問〕全国各地で「過去に経験のない」大雨が発生し、各地に甚大な被害を及ぼしている。

また、先日の大型台風18号上陸時には3府県に、初の大雨特別警報が発表された。自然災害の驚異に対し災害予防対策の必要性を改めて感じる。

当市の白石川上流には七ヶ宿ダムや川原子ダムを抱え、また小原渓谷もある。

「過去に経験のない」大雨などにより大規模な土砂災害等が発生した場合、下流で生活をする多くの住民の安全を考え、「避難準備情報や避難勧告」を発令した場合の避難方法や避難場所等の具体的な計画を伺う。

〔答弁〕【市長】宮城県や本市建設課、消防署、消防団などが連携して災害状況の把握に努める。

しかし、局地的短時間に発生する大雨災害に対する具体的な避難方法や避難場所については作成されていない。

現在、地域防災カルテや指定避難所台帳の作成を進め、短時間で発生する災害に対し対応できる地域防災計画の作成を進めていきたい。